PLANING LECTURE ON EX.VIEW

カースペースのデザインテクニック

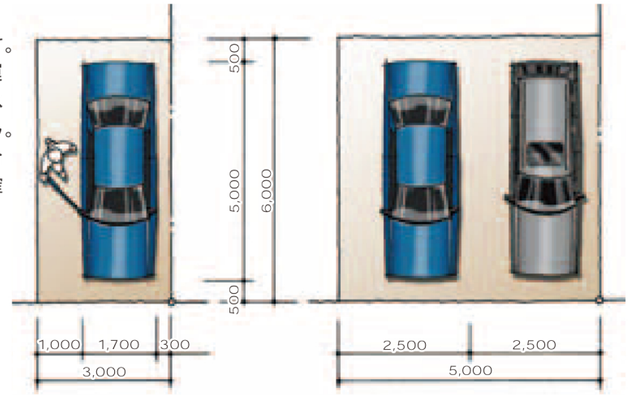
敷地に対するカースペース（駐車場）面積の割合は意外と大きく、この部分を単なる土間コンクリートで仕上げると、昼間車がない時など単調で固いイメージを与えてしまいます。また、狭小地においてお庭とカースペースを両立させようとするならば、その配置や植栽とのコーディネートも必要不可欠となってくるでしょう。
カースペースの標準的な基本寸法とレイアウトパターン、床のデザインのポイントや植栽をどう採り入れるかを、事例をあげて解説します。

基本寸法 1

どんなにデザインが良くても、物理的に車が納まらなくてはいけません。
まずはしっかりと必要寸法を頭に入れておきましょう。

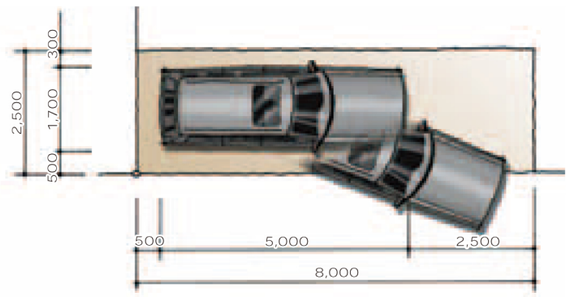
A 直角駐車の場合

1台駐車の場合は間口3.0m、奥行き6.0mを基本とします。車の幅は1.7m程度ですが、運転席側のドアを空けるスペースもみておかなくてはなりません。2台以上並べて駐車する場合は1台あたり2.5mを目安に確保しておきます。



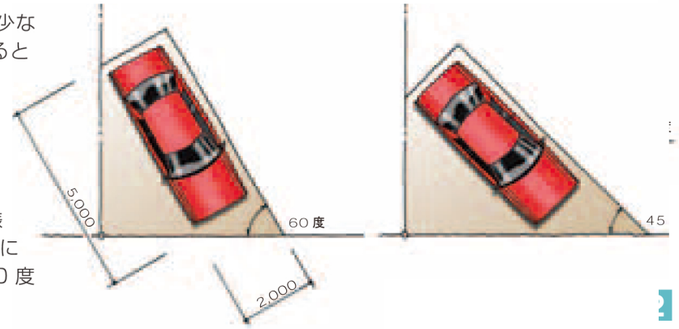
B 平行駐車の場合

間口寸法は8m、奥行き2.5mを基本とします。車そのもののスペースとしては間口5.5mで納まりますが、出入りのためのスペースとしてその前方を2.5m程度あけておく必要があります。何も工夫しないで計画すると、道路面のほとんどが土間コンクリートとなってしまうので注意してください。



C 斜め駐車の場合

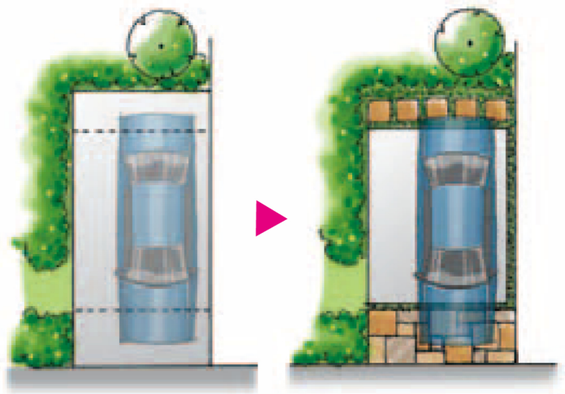
斜め駐車の施工例はまだ少ないですが、うまく処理すると使い勝手も良く、個性的なデザインとすることが可能です。奥行きは短い側で最低でも5m確保し、そこから車幅＋αとして2m取る様にしましょう。角度は道路に対して60度・45度・30度が目安です。



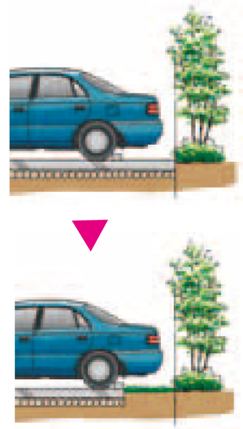
床のデザイン 2

A 基本的な考え方

床の一部に天然石やレンガでアクセントを付ける場合は、最優先で道路側に入れましょう。その後ろの土間コンクリートとの境目には草目地を設けるときれいに納まります。
また、後部80cm程度はタイアが乗らないので無理してコンクリートを打たないで、平板と地被植物でアレンジすると効果的です。



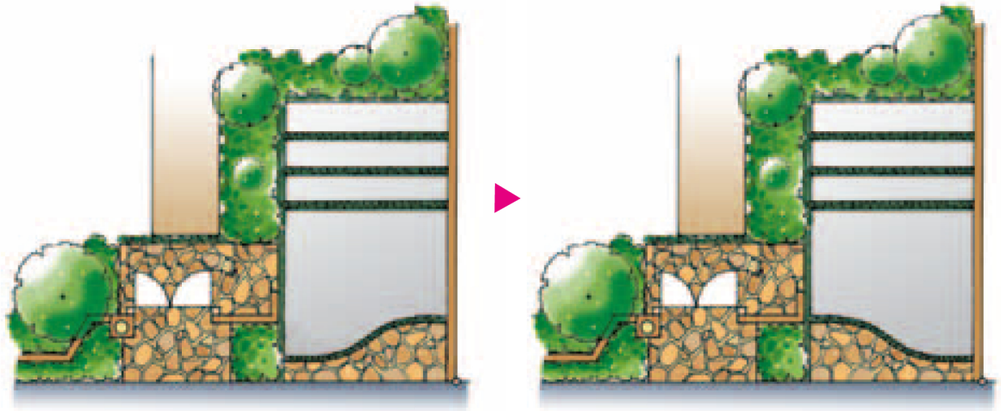
アクセントを付ける場合は道路側を最優先に。又、トランクからの荷物の出し入れを考慮して地被植物の中に平板などを配置する。



駐車場後部はタイアが乗らないので無理してコンクリートを打たない。

B 曲線を入れる時の注意点

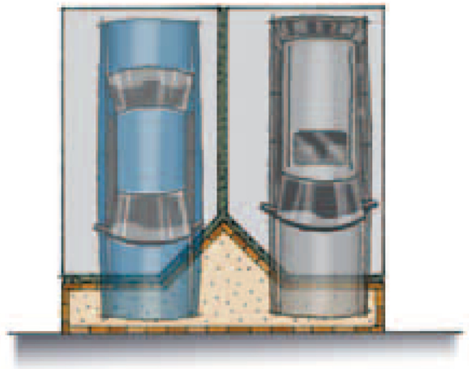
道路側のアクセントを曲線で入れる場合、例えば下図のようなパターンが考えられます。どちらも工事金額は同じですが、やはりメインである「門まわり」へ向かってボリュームを付ける方が、視覚的には安定感が出るものです。

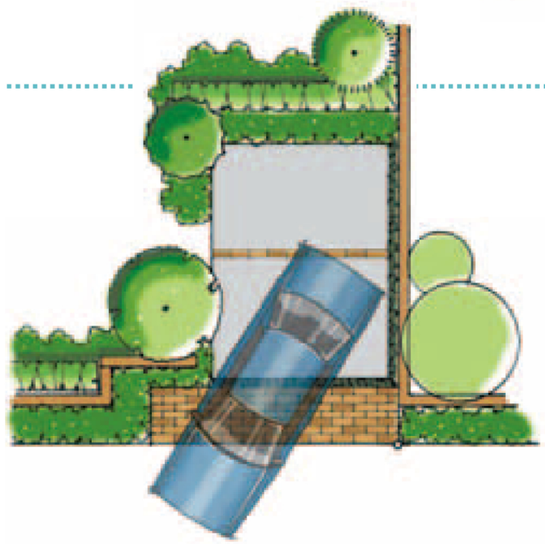


アクセントの付け方ひとつでイメージは大きく変わる

C 2台駐車のポイント

2台並べて駐車する場合のポイントとしては、床面積が大きくなり1台駐車よりもさらに床が目立ちますので、アクセントの付け方を工夫しましょう。2台分の床のデザインが合体して一つの模様に見えるようにすると良いでしょう。また、それぞれの車の駐車スペースの境目の目安として床にラインやポイントを設けると使い勝手も良くなります。



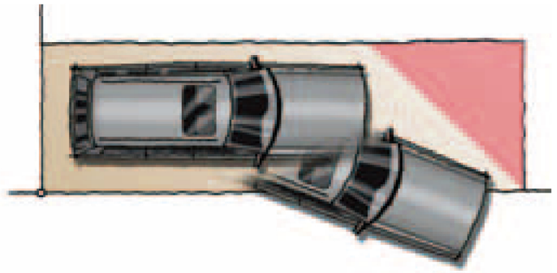


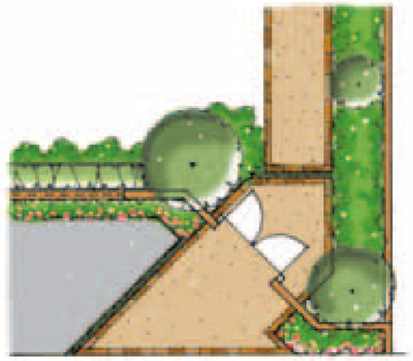
D 全面道路の幅員が狭い場合のアイデア

通常、全面道路の幅員は4m以上確保されていますが、まだ道路後退が済んでいない場合、4m未満の道路も実際には多くあります。直角駐車の間口寸法は3mを基準としていますが、これはあくまで道路の幅員が4m以上ある場合ですので、狭い道路に面している場合は間口をもう少し広く取りましょう。ただし、奥まで広くする必要はないので、隣接する塀を後退させたりして、道路側だけを広くとれば経済的に処理することができます。

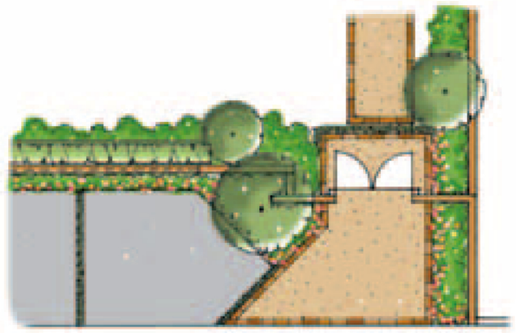
E 平行駐車のポイント

平行駐車を採用する場合、道路に対して8m程度のスペースをあけておくことになります。この場合は単に四角いスペースとして考えるのではなく、車の乗らない部分（右の図の赤い三角部分）を植栽スペースや門まわりとして積極的に活用することがポイントとなります。アプローチも兼ねているのであれば、床の仕上げを変えて視覚的にアピールするのも良いでしょう。



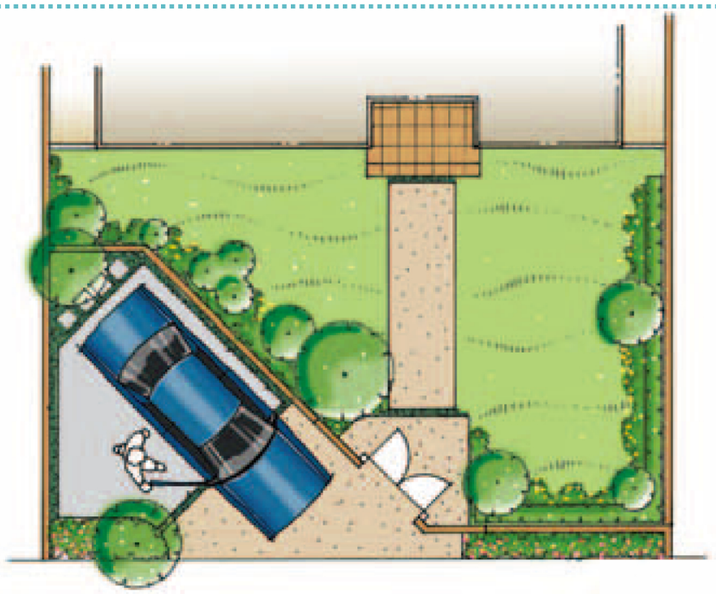


斜めに門を構えた例



道路と平行に門を構えた例

F 斜め駐車のポイント

斜め駐車で最も注意したいのは道路側の処理です。そのままでは間口が大きく開き過ぎるので植栽スペースなどを設けて調整してください。

そうすることで道路面の緑量が確保され、街並として見たときに潤い豊かな景観となるわけです。